

運 営
— 2011年度 —

1. 技 術 部

(1) 野菜・花卉部門

今年度は中四国農場協議会の当番校になっていることから農場全体の環境整備も考慮しつつ圃場の管理を行った。

当農場では一昨年からグッドジョブ支援センター（障害者雇用）のスタッフを受け入れている。今年度は12名（現場5名と出荷準備等7名）を受け入れて協力態勢をとりながら運営を行っている。

今年度は台風等による被害は少ない年であったが7月19日の台風は岡山に上陸するとの事で、ビニールハウス4棟の上部ビニールの撤去を行い被害は最小に収めた。年末の気温上昇のため野菜の生育が早まり生産の過剰とその後の不足で価格変動の大きい年であった。

今年度も年間の学生実習に添った作付け計画を設定し、作物栽培の作付け体系を充実することで安定生産が計れたと思われる。作物の作付けは緑肥栽培を組み入れた輪作体系をとり土地の有効利用に努めた。また景観作物栽培実習の一環として、約10aのヒマワリ畑やコスモス畑の播種・定植を学生と共にを行っている。土作りとして馬術部から‘馬糞’、果樹部より‘剪定木のチップ’、稲作専門の八浜農場より‘もみ殻’、津高牧場より‘牛糞’の提供を受け堆肥作りも行っている。

地域との関わりとして、直売所での販売をはじめ、サツマイモの収穫体験や一般参加を募っての岡山大学公開講座（育てて食べよう美味しい夏野菜講座）も引き続き行っている。

学生実習で、「ハクサイの漬物実践講義」を行った事をきっかけに、当センターでもハクサイ、ダイコンの塩漬けを生産し直売所で販売した。漬物は予想以上に好評であり、グッドジョブ支援センタースタッフと共に漬物を生産した。

また、初の試みとして、岡山大学農場技術職員をグアム大学へ2週間派遣した。グアム大学は、「グアム島における食品残渣物の農業利用」という研究の中で、食品残渣を堆肥にする技術を探っており、グアム大学農場スタッフ、学生と共に、堆肥に使用

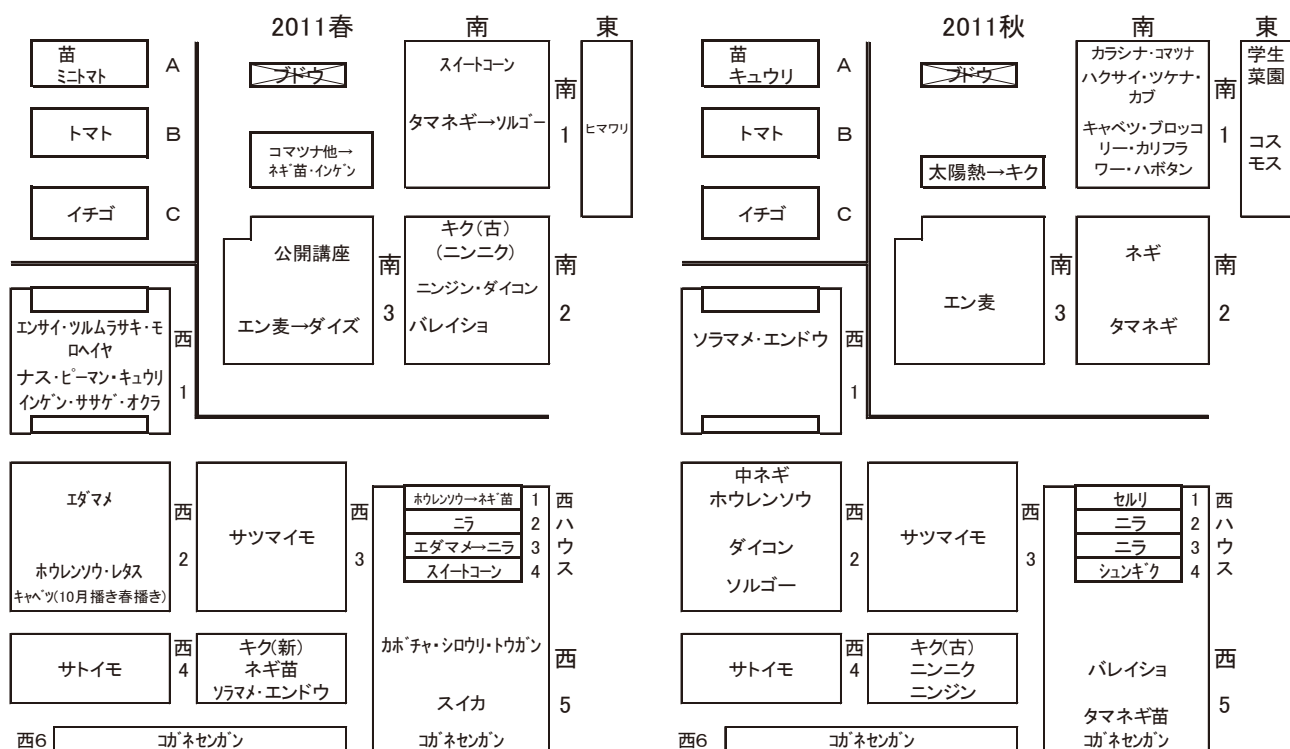
する資材や方法を探り、実際に試作、検討を行った。

1) 果菜類

施設栽培では汎用温室C棟（440㎡）で「らくちん方式・高設式養液栽培」によるイチゴ栽培を行なった。イチゴは2品種‘女峰’と‘さちのか’を栽培した。害虫はダニが発生したが防除サイクルに天敵（チリカブリダニ）を利用したことにより、防除労力の軽減に繋がった。しかし育苗時に炭疽病が発生した（次年度用の苗）。本圃へ定植後も炭疽病の発生が続き、欠株が多くみられた。育苗時に座主川用水による頭上灌水をしており、夏の暑さで苗が弱っている時期に、座主川用水中の雑菌が関係し発生すると思われる。対策として、次年度より夏場の育苗時のみ水道用水による頭上灌水に切り替えたい。また11月に開始する夜間の電照が通年より2週間ほど早かったことと、12月上旬まで暖かかったことで、12月末の時点で、葉柄が間延びした株となった。イチゴの手入れは定植後から2月初旬まで学生実習で行った。また今年度は、摘花を強めにしたため（果房当たり3果～5果）収穫量は減少したが、イチゴは例年より大きな果実を収穫することができた。

トマト栽培は汎用温室B棟（440㎡）で行った。春作、秋作共に大玉の‘桃太郎ファイト’と中玉の‘シンディースイート’の2品種で行った。今年度は、春作、秋作共にコナジラミの発生が多く、薬剤を散布したが大きな効果は見られなかった。コナジラミ対策として、初めて天敵殺虫剤であるオンシツツヤコバチをハウス内に放飼したが、顕著な効果は見られなかった。今年度も、裂果の発生は少なかったように思われる。秋作では、12月に菌核病の発生が少し見られたが、早めに株を撤去することで拡散を防ぐことができた。

汎用温室A棟では、4月～8月末までミニトマトの‘ピコ’を栽培した。夏越しを目標としたが、猛暑により株が弱り始めたため8月末で終了となった。イチゴと合わせてトマトも学生実習の教材として高



平成23年度野菜花き部担当圃場作付け図

頻度で利用した。

キュウリの露地栽培は、実生株の30cm間隔密植栽培とした。密植にすることで収量を確保し、株が弱ると早めに終了して再び新しい苗を定植する方法をとった。弱った株を早めに撤去することで、病気等の蔓延をふせぐように心がけた。また初めての試みとして、汎用温室A棟で、8月末にミニトマトの栽培が終了した後に、キュウリの抑制栽培を行った。9月15日に定植し11月末まで収穫することができた。栽培は、トマトと同じ資材を使用した。品種は‘味さんご’‘つや太郎’‘北進’‘京しずく’の4品種である。品種を変えることにより収穫時期をずらすようにした。今回、9月15日の定植であったが、もう2週間程度早く定植することで収穫時期が早くなり、11月後半の暖房費を削減できる可能性が高いと考えられる。

ナスは1月31日に播種し、3月18日に台木に接ぎを行なった。4月19日に学生実習で定植し、ビニールトンネルを使用した。3品種‘長者’‘千両’‘くろわし’を栽培し、4本仕立てとした。例年は10月末まで収穫を行うが、今年度は台風により葉が落ちてしまい、9月7日でナスの収穫は終了した。

ピーマンは4品種‘京鈴’‘伏見甘長’‘甘とう美人’‘鷹のツメ’の栽培を行った。2月28日に播種し、

5月2日に学生実習で定植を行い、ビニールトンネルは使用しなかった。3本仕立てとし、摘果と整枝を行うことで、10月13日まで収穫することができた。ナス・ピーマンも学生実習の教材で利用し、畝たて、定植、誘引等を行った。

オクラは、30cm間定植の2条植えとしている。7月～10月まで収穫を行い夏野菜として好評である。

スイカは、2月28日に播種、3月14日に呼び接ぎを行った。4月21日に定植した。接ぎ木では、接ぎ目の切り込みが浅く、活着率が悪かった。大玉スイカ‘夏武輝’小玉スイカ‘紅しずく’を定植し4本仕立ての整枝を行なった。栽培管理は学生実習主体で定植から敷き藁・整枝・収穫を行なった。

カボチャは3月22日に播種し、4月26日に学生実習で定植を行った。敷き藁、摘心、摘花、収穫等も学生実習で行った。

2) 葉菜類

軟弱野菜は同一圃場で集約栽培を行っている。ホウレンソウ・コマツナ・ミズナ・チンゲンサイ・レタス・シロナ・カラシナは各作目とも年2回の春と秋の作付けを行った。ビニールハウス栽培と露地栽培の作付け体系を行った。全てマルチ栽培を行い順

平成 23 年度における野菜・花卉の販売量

作 目	品 種	面積 (a)	収量 (kg)	売払金額 (円)
イチゴ	女峰	2.2	643	729,291
イチゴ	さちのか	2.2	310	355,207
インゲンマメ	ツルなしモロッコ	1.2	36	42,086
エダマメ	宝石 他	14.3	2648	715,169
エンドウ	ツタンカーメン	1.2	29	17,520
オクラ	グリーンソード	1.2	177	117,827
カブ	ひかり	2.8	825	155,286
カボチャ	エビス・隼人・利休	4.8	832	15,350
カリフラワー	スノークラウン	2.4	146	36,815
カンラン	彩里・マルシェ	3.5	1215	186,168
カラシナ	うまから菜	2.8	192	62,254
キュウリ (温室)	北進・味さんご	2.2	342	102,600
キュウリ	夏すずみ	0.6	296	69,540
エンサイ		1.2	275	104,323
コマツナ	浜美 2 号	2.3	666	233,551
ゴーヤ	さつま大長れいし	0.3	41	20,560
サツマイモ	ベニアズマ	24.5	5766	1,106,910
サトイモ	エグイモ・石川早生	9.2	960	194,709
シュンギク	大葉	1.5	468	238,821
スイートコーン	カクテル・ゴールドラッシュ	12.0	3192	342,533
スイカ	夏武輝	4.8	875	87,590
ソラマメ	打越一寸	2.5	330	127,424
セロリ	コーネル	1.5	119	35,528
ダイコン	大師・四月早生・耐病総太り	5.3	2004	230,771
タマネギ (白)	ソニック・他	9.0	5303	533,336
タマネギ (赤)	猩々赤		482	82,956
タマネギ (苗)		0.3	5470	27,350
チンゲンサイ	青武	2.2	365	137,144
ツルムラサキ		1.2	238	74,555
トマト	桃太郎ファイト 他	8.8	3339	1,703,339
ナス	築陽・丸・水	1.8	1241	340,800
ナバナ	摘み花菜	0.6	66	28,690
ニンジン	向陽 2 号 他	6.5	1383	252,332
ニラ	大葉	3.0	358	149,347
ニンニク	ホワイト六片	2.4	175	113,593
ネギ	九条	10.5	2111	632,362
ネギ	赤ネギ	4.0	571	118,820
ハクサイ	黄ころろ・無双	3.0	358	67,090
ハダイコン	葉太郎	0.6	52	17,607
バレイショ	デジマ・男爵・メイクイーン	17.4	3024	479,492
ピーマン	京鈴・甘とう美人など	1.2	433	183,080
ブロッコリー	ハイツ	3.9	162	80,058
ハウレンソウ	リード 他	9.2	1093	370,412
マビキナ	人参・大根		309	116,216
ミズナ	京みぞれ 他	2.8	792	223,683
メキャベツ	早生子持	0.6	20	12,999
モロヘイヤ		1.2	120	46,180
レタス	シスコ	2.3	356	73,514
レタス	レッドウェーブ	3.3	400	133,093
その他葉菜	タカナ・ターサイ	1.2	116	24,500
落花生		1.2	27	41,700
花木苗	ベチュニア 他		6814	573,952
ハウス菊	轟 他	1.0	546	36,400
露地キク	美林 他	3.0	1588	103,800
電照キク	セイスナップ	0.5	218	14,700
電照キク	ローズ舞風車	0.5	88	5,500
計		209.7		12,126,433

2011防除履歴

エダマメ防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
4月21日	アフファーム乳剤	1000
5月20日	アグロスリン乳剤	2000
6月9日	アデオオン乳剤	
6月29日	アグロスリン乳剤	2000
7月15日	アフファーム乳剤	1000

秋ダイコン(1)防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
9月1日	デナボンベイト	6kg/10a
9月8日	アフファーム乳剤	1000
9月12日	アデオオン乳剤	2000
9月22日	アタブロン乳剤	2000
9月29日	セレクトジンBT剤	1000
10月6日	エスマルクDF剤	1000

コマツナ防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
春播き		
4月4日	モスピラン水和剤	2000
	アミスター20	1000
4月21日	アフファーム乳剤	1000
5月16日	アフファーム乳剤	1000
5月20日	エスマルクDF剤	1000
5月25日	アフファーム乳剤	1000
秋播き		
9月8日	アフファーム乳剤(1)	2000
9月12日	アデオオン乳剤(1,2)	2000
9月22日	アフファーム乳剤(1,2)	2000
9月29日	セレクトジン水和剤(2,3)	1000
10月6日	アフファーム乳剤(3)	2000
10月13日	アフファーム乳剤(3)	2000
10月27日	エスマルクDF剤	1000

ハウレンソウ防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
春播き		
4月21日	アフファーム乳剤(春)	2000
5月20日	エスマルクDF剤	1000
5月25日	アフファーム乳剤	2000
秋播き		
9月29日	セレクトジン水和剤(秋)	1000
10月6日	アフファーム乳剤	2000
10月13日	アフファーム乳剤	2000
10月27日	エスマルクDF剤	1000

ネギ防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
8月3日	アドマイヤー粒剤	4kg/10a
9月29日	アデオオン乳剤	2000
	ダコニール1000	1000
10月6日	トレボン乳剤	1000
	ダコニール1000	1000
11月17日	アグロスリン乳剤	2000
	アミスター20	2000

キャベツ(夏播き)防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
9月1日	オルトラン粒剤	1g/1株
9月6日	アデオオン乳剤	2000
9月12日	アタブロン乳剤	2000
9月22日	アタブロン乳剤	2000
9月29日	セレクトジンBT剤	1000
10月6日	トレボン乳剤	1000
	ダコニール1000	1000
10月27日	エスマルクDF剤	1000
11月17日	エスマルクDF剤	1000

ハクサイ防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
9月22日	アフファーム乳剤	2000
9月29日	セレクトジンBT剤	1000
10月6日	アフファーム乳剤	2000
	ダコニール1000	1000
10月13日	プレオ乳剤	1000
	ストロビーフロアブル	3000
10月18日	アデオオン乳剤	1000
	ストロビーフロアブル	3000
10月27日	エスマルクDF剤	1000
11月17日	エスマルクDF剤	1000
11月25日	アデオオン乳剤	2000

タマネギ防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
3月4日	ランマンフロアブル	2000
	ジェイエース水溶剤	1000
4月1日	アデオオン乳剤	3000
	アミスター20	2000
4月21日	モスピラン水和剤	2000
	ベルコートフロアブル	1000
	ランマンフロアブル	2000
9月9日	バスアミド(苗床)	3kg
11月4日	Zボルドー水和剤	500
	マラソン乳剤	1000
12月9日	ジマンダイセン水和剤	500

ナス防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
	ジェイエース水溶剤	1000
5月26日	ダコニール1000	1000
	トレボン乳剤	1000
7月18日	チェス顆粒水和剤	5000
	ユーバレン水和剤	500
8月1日	アミスター20	2000
	コテツフロアブル	2000
8月18日	ストロビーフロアブル	3000
	カスケード乳剤	2000
	ベストガード水溶剤	1000
8月30日	サンヨール乳剤	500

トマト防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
(半促成)		
3月4日	ランマンフロアブル	2000
	ジェイエース水溶剤	1000
4月12日	コテツフロアブル	2000
	Zボルドー水和剤	500
6月21日	ホライズンDF	2000
	ダントツ乳剤	2000
6月30日	アグロスリン乳剤	2000
	ベルコートフロアブル	3000
7月18日	チェス顆粒水和剤	5000
	ユーバレン水和剤	500
7月22日	コルト水和剤	4000

(抑制)		
8月17日	アタブロン乳剤	2000
	アルバリン水溶剤	2000
8月19日	サンヨール乳剤	500
8月25日	アクタラ水溶剤	2000
	アブロード水和剤	1000
9月8日	リドミルMZ水和剤	1000
	ボタニガードES	500
9月12日	粘着くん液剤	100
9月16日	ウララDF	2000
	ジマンダイセン水和剤	800
	アタブロン乳剤	2000
10月3日	ダントツ水溶剤	2000
	モレスタン水和剤	2000
11月30日	アドマイヤー水和剤	2000
	ダコニール1000	1000
12月5日	アタブロン乳剤	2000
	クリアザールフロアブル	4000

キュウリ防除履歴		
月 日	薬品名	倍率
(露地2)		
6月30日	アグロスリン乳剤	2000
	ベルコートフロアブル	3000
7月20日	アフファーム乳剤	2000
	トップジンM水和剤	1500
8月1日	アミスター20	2000
	コテツフロアブル	2000
8月18日	ストロビーフロアブル	3000
	カスケード乳剤	2000
	ベストガード水溶剤	1000
8月30日	サンヨール	500

(温室)		
9月29日	アドマイヤー水和剤	2000
	ダコニール1000	1000
10月24日	アミスター20	2000
	カスケード乳剤	1000
	エスマルクDF	1000
11月2日	ベルコートフロアブル	2000
	ロディー乳剤	1000
11月10日	ベストガード水溶剤	1000
	イオウフロアブル	500
	ベストガード水溶剤	1000

次収穫を行った跡地を他作目で再利用して作付けを行った。その繰り返しの作付けを2～3回行った。特に秋作は生産に問題は無く栽培が出来た。

昨年度のハクサイは生理障害が多発した事から、今年は品種の選択で2品種‘無双’‘黄ごころ’とした。化成肥料は硫黄を含む物を選択した。堆肥の

投入も行った結果、昨年発生した障害は減少した。

カンラン・ブロッコリー・カリフラワーは春と秋の年2回の作付けを行っている。春作は抽苔が早く、高温により腐敗也多発する為に作付け面積を少なくして、主に秋作を主体に栽培を行った。7～8月播種の育苗は高温障害と灌水不足による発芽不良から

十分な苗の確保が出来ず、苦慮した。ハクサイ・レタス・セルリーの育苗も同様で十分な灌水管理が行える様にしたい。

ネギは‘九条ネギ’と‘赤ネギ’の2品種を栽培している。‘九条ネギ’は細ネギ・中ネギ用としても収穫を行っている。3月11日にビニールハウス栽培で細ネギ栽培用イレルとして播種を行い、5月9日から6月8日まで収穫を行った。3月18日に露地栽培で中ネギと本ネギ栽培用として播種を行い苗作りを行った。中ネギ栽培としてはエダマメ栽培の収穫後の跡地マルチフィルム畦を利用して苗を定植した。6月28日から8月9日まで定植を行い8月1日から10月21日まで収穫を行った。本ネギ栽培は7月29日に定植を行い、10月25日から3月1日まで収穫を行った。‘赤ネギ’は3月18日に播種を行い、7月29日に定植、11月28日から3月21日まで収穫をおこなった。苗の出来も良くまた量も十分確保出来たことから苗の販売も行った。

タマネギは5品種‘マッハ’‘ソニック’‘ターボ’‘ネオアース’‘猩々赤’を選定した。播種、定植、収穫の一部を学生実習の教材として利用した。雑草の発生を抑えるために、定植後に‘もみ殻’をマルチビニールの代替として畝に敷いている。本年度は5月にタマネギの吊り玉貯蔵をするための貯蔵場所を堆肥舎の一部を利用して作成した。吊るして乾燥保存することにより、10月まで保存することができ販売収益増となった。

エンサイ・ツルムラサキ・モロヘイヤは4月20日に播種した。つる性葉菜は腋芽の育成と収穫（摘芯）を繰り返すことで初秋までの収穫が可能であり、真夏の葉菜類が少ない時期に供給できる野菜として有望である。またグッドジョブ支援センタースタッフの収穫業務として委託した。

3) 根菜類

カンショは昨年と同様に‘ベニアズマ’と‘コガネセンガン’の2品種を栽培した。植え付けは実習主体に行った。5月17日は‘ベニアズマ’2000本と‘コガネセンガン’600本。5月31日は‘ベニアズマ’2000本の植え付けを行った。本畑採苗を行い6月17日に‘ベニアズマ’1500本分を、6月28日に‘コガネセンガン’500本分を植え付けた。ベニ

アズマの初期生育は良好で、夏季も旺盛で順調に推移した。病害虫の発生も少なく、生産量も昨年同様良好であった。‘コガネセンガン’は岡大焼酎に供し、‘ベニアズマ’は一般開放と販売に供し好評を得た。

サトイモは‘石川早生’‘赤芽’‘エグイモ’の3品種を栽培した。4月8日に種芋の準備を行った。種芋は3品種とも親芋を主に採取していることから、分割し石灰を塗布した。植え付けは4月12日に行った。収穫は11月7日に実習で行った。夏季の灌水も十分行なうことが出来、生育も良好であった。隣接で緑肥用ソルゴーの栽培をすることで、サトイモの害虫発生が減少した。

バレイショは2～3年不作が続いている。圃場の排水性が悪く、植え付け後の種芋の腐敗が主因と思われる。今年は湿害対策として高畦栽培を行った。マルチ栽培と平畦栽培で比較を行った。春は‘ダンシャク’‘メークイン’‘デジマ’‘アンデス’の4品種を栽培した。3月3日に植え付けを行った。遅霜対策として20cmの深さに植え付けを行った。植え付け後の天候に恵まれたことと、高畦の効果もあって欠株が少なく、初期生育も良く順調であった。秋は‘デジマ’と‘アンデス’の2品種を栽培した。栽培方法は春と同じマルチ栽培と平畦栽培を行った。9月15日に植え付けを行ったが、翌日に大雨で畦間に水が溜まる状態で種芋の腐敗が多く、平畦で約7割がマルチ栽培で約2割が腐った。残っていた種芋と萌芽した芋をまとめて栽培を行った。収穫は11月21日に‘デジマ’を実習で11月28日に‘アンデス’を行い来年用の種芋として一部を保存した。

4) 豆類・スイートコーン

エダマメとスイートコーンは全て移植栽培を行い、ビニールハウス栽培と露地栽培の作付け体系を行っている。エダマメの播種は80穴セルを使用して1穴2粒を播き、スイートコーンは128穴セルを使用して1穴1粒を播種した。エダマメは3品種から‘サヤムスメ’と‘大勝白毛’の2品種をくわえて5品種として栽培を行った。育苗・初期生育とも順調であった。病害虫も少なく高収量が得られた。スイートコーンは2品種で早生の‘カクテル600’と晩生の‘ピーターコーン’を栽培した。防鳥対策として晩生の品種選定は効果があったが、収穫期が

8月となりアワノメイガの被害が大きかった。

また昨年度より落花生の栽培を始めていたが、本年度は昨年度に種として保存していた落花生を播種し移植栽培を行った。出芽率は高く、90%近かった。20cm間隔の2条植えとしたが、株張がよく込み合ったため、夏場に間引きを行った。茹でて食する生ピーナツとして販売を行い、岡山県では珍しいこともあり即完売した。

その他の豆類として、インゲン豆、ソラマメ、エンドウ豆の栽培も行っている。

5) 花き

露地キクは主に冬至芽の移植栽培を行なっているが、移植時期が遅れると短茎で収穫が不能となることから3月下旬から行った。

また電照キクは通年8月中旬に定植を行っている。‘セイスナップ’‘ローズ舞風車’は伸長が旺盛なため、例年より定植を遅らせ8月末に行った。本年度は、ホコリダニ、アブラムシの防除を定期的に行ったため、葉の汚れがかなり減少した。定植前に、

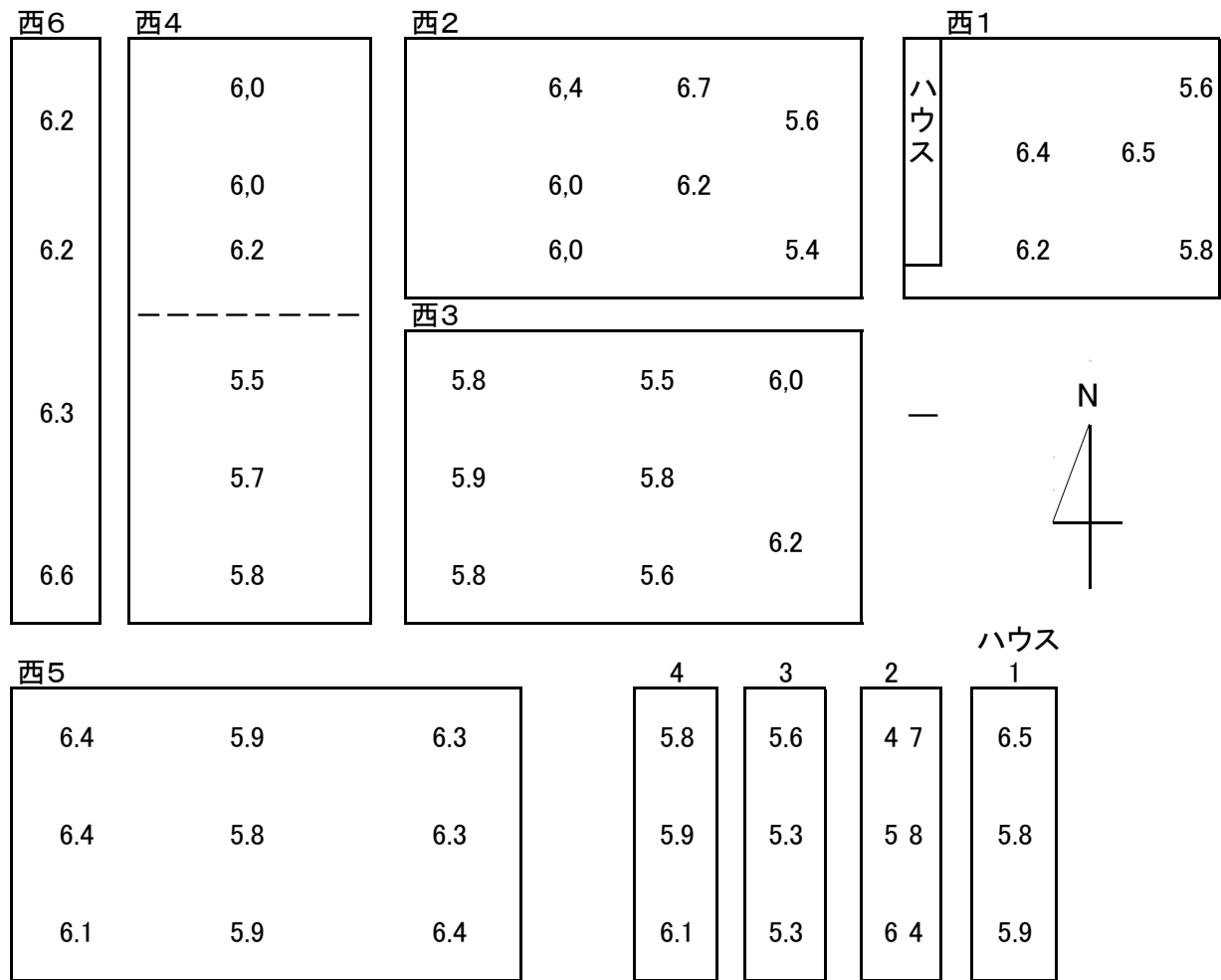
圃場へ多量に堆肥を散布したため、生育障害がでると思われたが、大きな障害はみられなかった。

花苗は花壇苗をポットで栽培している。昨年度より作付けを増やし、少量多品種で季節に合わせた花を栽培している。春の花苗生産は、1月から3月の農閑期と、花の播種時期が重なるため、冬季の仕事として最適である。直売所での花苗販売が定着してきた。花苗の播種業務は、グッドジョブ支援センタースタッフに委託している。

また教育学部附属特別支援学校高等部の体験実習（月に1回）として、春はペチュニアのプラグ苗をポットに上げる作業（鉢あげ）から、仕上がったポット苗を岡山大学事務局前の花壇へ定植するまでの作業を行っている。その後の花壇の灌水や除草等については、グッドジョブ支援センタースタッフが管理を行っている。秋はパンジーの定植を同じように体験実習として行っている。

（山奥 隆，宮地 大介）

圃場土壌のpH測定結果（2011.11.2測定）



*デメトラ（EF システム ソイルテスター）にて測定

平成23年度における野菜・花卉部門 耕種概要

作目	圃場	面積(a)	品種	畦幅	株間	播種(月日)	定植(月日)	収穫(始)	収穫(終)	
カンショ(1)	西3	20	ベニアズマ	130	25	採苗6月17日	5月17日・31日	10月3日	11月4日	芋掘りが始まる(4500kg/10aの収量)
カンショ(2)	西6	2.5	コガネセンガン	130	25	————	5月17日	11月9日	11月9日	
カンショ(3)	西5	2	コガネセンガン	130	25	————		11月4日	11月4日	不作(4畦で約300kg:1500kg/10a)
エダマメ(1)	ハウス西3	1.5	サッポロミドリ	65	20	2月17日	3月10日	6月8日	6月16日	
エダマメ(2)	西2	1.5	宝石	65	20	2月17日	3月29日	6月20日	6月27日	
エダマメ(3)	西2	1.5	宝石	65	20	3月16日	4月7日	6月27日	7月4日	
エダマメ(4)	西2	1.5	宝石	65	20	3月29日	4月21日	7月4日	7月7日	
エダマメ(5)	西2	0.5	宝石	65	20	3月29日	4月27日	7月7日	7月8日	
エダマメ(6)	西2	1.5	宝石	65	20	4月13日	5月2日	7月11日	7月15日	
エダマメ(7)	西2	1	サヤムスメ	65	20	4月27日	5月16日	7月19日	7月21日	
エダマメ(8)	西2	1	サヤムスメ	65	20	5月16日	5月23日	7月26日	8月9日	
エダマメ(9)	西2	1	北海黒豆	65	20	5月16日	5月23日	7月25日	7月28日	
エダマメ(10)	西2	1	北海黒豆	65	20	5月20日	5月30日	8月1日	8月4日	
エダマメ(11)	西2	1.25	大勝白毛	65	20	5月27日	6月8日・13日	8月9日	8月18日	
エダマメ(12)	西2	1	大勝白毛	65	20	6月2日	6月13日	8月23日	8月25日	
スイートコーン(1)	ハウス西4	1.5	カクテル600	65	40	2月17日	3月16日	6月3日	6月13日	
スイートコーン(2)	南1	1.2	カクテル600	65	40	3月2日	3月30日	6月21日	6月27日	
スイートコーン(3)	南1	1.8	カクテル600	65	40	3月16日	4月5日	6月27日	7月4日	
スイートコーン(4)	南1	1.2	カクテル600	65	40	3月29日	4月21日	7月4日	7月8日	
スイートコーン(5)	南1	0.6	カクテル600	65	40	3月29日	4月27日	6月27日	7月8日	
スイートコーン(6)	南1	1.2	カクテル600	65	40	4月13日	5月2日	7月8日	7月8日	
スイートコーン(7)	南1	0.6	カクテル600	65	49	4月13日	5月13日	7月11日	7月12日	
スイートコーン(8)	南1	1.2	ゴールドラッシュ	65	40	4月27日	5月13日	7月12日	7月15日	
スイートコーン(9)	南1	1.2	ゴールドラッシュ	65	40	5月10日	5月25日	7月20日	7月22日	
スイートコーン(10)	南1	1.2	ゴールドラッシュ	65	40	5月26日	6月3日	7月24日	7月28日	
スイートコーン(11)	南1	0.3	ピュアホホワイト	65	40	5月26日	6月8日	7月27日	7月28日	
春カンラン(1)	西2	0.25	春波	65	30	2月18日	3月15日	6月17日	6月27日	
春カンラン(2)	西2	0.25	彩里	65	30	2月18日	3月15日	6月17日	6月27日	
秋カンラン(1)	南1	0.6	彩里	65	30	7月28日・8月9日	8月30日	10月27日	11月17日	
秋カンラン(2)	南1	2.4	湖月	65	40	8月23日	9月16日	12月26日	2月6日	9月6日追播80穴苗箱4枚
春ブロッコリー(1)	西2	0.5	ハイツ	65	40	2月17日	3月15日	5月27日	6月8日	
春ブロッコリー(2)	西2	0.5	ハイツ	65	40	3月2日	4月5日	5月30日	6月8日	
春ブロッコリー(3)	西2	0.5	ハイツ	65	40	3月31日	4月27日	6月21日	6月27日	
秋ブロッコリー(1)	南1	0.6	ハイツ	65	40	7月28日	8月30日	10月24日	11月17日	
秋ブロッコリー(2)	南1	0.6	ハイツ	65	40	8月9日	9月20日	11月8日	12月26日	実習・作陽大学
秋ブロッコリー(3)	南1	0.6	ハイツ	65	40	8月23日	9月28日	12月12日	1月23日	9月6日追播80穴苗箱5枚
秋ブロッコリー(4)	南1	0.6	エンデバー	65	40	8月23日	9月20日	2月28日	3月21日	
秋カリフラワー(1)	南1	0.6	スノークラウン	65	40	7月28日	8月30日	11月1日	11月15日	
秋カリフラワー(2)	南1	0.6	スノークラウン	65	40	8月9日	9月20日	11月9日	1月23日	実習・作陽大学
秋カリフラワー(3)	南1	0.6	スノークラウン	65	40	8月23日	9月28日	12月12日	1月23日	9月6日追播80穴苗箱5枚
秋カリフラワー(4)	南1	0.6	スノードレス	65	40	8月23日	9月20日	3月5日	3月21日	
春ホウレンソウ(1)	西2	0.5	リード	65	15	2月23日		4月18日	4月21日	
春ホウレンソウ(2)	西2	0.5	リード	65	15	3月7日		4月25日	4月27日	
春ホウレンソウ(3)	西2	0.5	リード	65	15	3月24日		5月6日	5月6日	
春ホウレンソウ(4)	西2	0.5	リード	65	15	4月4日		5月24日	5月26日	
春ホウレンソウ(5)	西2	0.5	リード	65	15	4月22日		6月6日	6月7日	
春ホウレンソウ(6)	西2	0.5	エスパール	65	15	2月23日		4月27日	5月16日	
春ホウレンソウ(7)	西2	0.5	エスパール	65	15	3月7日		5月1日	5月16日	
春ホウレンソウ(8)	西2	0.5	エスパール	65	15	3月24日		5月10日	5月18日	
秋ホウレンソウ(1)	西2	0.5	リード	65	15	9月1日				台風の影響と高温障害で発芽障害及び枯死が多発
秋ホウレンソウ(2)	西2	0.5	リード	65	15	9月7日		10月18日	10月21日	
秋ホウレンソウ(3)	西2	0.5	リード	65	15	9月15日		10月18日	10月25日	
秋ホウレンソウ(4)	西2	0.5	リード	65	15	9月26日		10月28日	11月1日	
秋ホウレンソウ(5)	西2	0.5	リード	65	15	9月29日		11月4日	11月10日	
秋ホウレンソウ(6)	西2	0.5	リード	65	15	10月3日		11月10日	11月15日	秋作では一番の出来(この時期が最適)
秋ホウレンソウ(7)	西2	0.5	リード	65	15	10月6日		11月17日	11月28日	
秋ホウレンソウ(8)	西2	0.5	リード	65	20	10月21日		12月5日	12月8日	コカブ(1)の跡地
秋ホウレンソウ(9)	南1	0.6	リード	65	20	10月14日	10月24日	12月5日	12月8日	コマツ(2)の跡地

作目	圃場	面積(a)	品種	畦幅	株間	播種(月日)	定植(月日)	収穫(始)	収穫(終)	
秋ホウレンソウ(10)	南1	0.6	リード	65	20	10月14日	10月31日	12月12日	12月27日	レタス(レッド1)の跡地
細ネギ	ハウス西1	1.5	九条ネギ	32.5	条播	3月11日		5月9日	6月8日	
ネギ苗	西4	1	九条ネギ	---	条播	3月18日				
中ネギ(1)	西2	2.5	九条ネギ	65	20	3月11日	6月28日	8月1日		エダマメの跡地
中ネギ(2)	西2	1	九条ネギ	42.5	20	3月11日	7月11日			3条植
中ネギ(3)	西2	0.5	九条ネギ	65	20	3月18日	8月3日			2回目・1穴の苗5〜6本
中ネギ(4)	西2	0.5	九条ネギ	65	20	3月18日	8月9日		10月21日	2回目・1穴の苗5〜6本
ネギ(2)	南2	4.5	九条ネギ	90	25	3月18日	7月29日〜8月1日	10月25日	3月1日	
ネギ(3)	南2	4	赤ネギ	90	25	3月18日	7月29日〜8月2日	11月28日	3月21日	抽苔が始まっていた
春レタス(1)	西2	0.5	レッドウエーブ	65	20	3月2日	3月30日	5月13日	5月18日	
春レタス(2)	西2	1	レッドウエーブ	65	20	4月15日	5月16日	6月13日	6月22日	
春レタス(3)	西2	0.5	シスコ	65	30	2月17日	3月25日	5月16日	5月24日	
秋レタス(R1)	南1	0.3	レッドウエーブ	65	30	8月19日	9月26日	10月24日	10月31日	
秋レタス(R2)	南1	0.3	レッドウエーブ	65	30	8月22日	9月26日	10月24日	10月31日	
秋レタス(R3)	南1	0.6	レッドウエーブ	65	30	8月31日	9月28日	11月1日	11月17日	
秋レタス(R4)	南1	0.6	レッドウエーブ	65	30	8月31日	10月7日	11月17日	12月12日	
秋レタス(S1)	南1	0.6	シスコ	65	30	8月31日	9月26日	11月7日	11月15日	
秋レタス(S2)	南1	0.6	シスコ	65	30	8月31日	9月28日	11月15日	11月30日	
秋レタス(S3)	南1	0.6	シスコ	65	30	8月31日	10月7日	12月1日	12月6日	
ニラ(1)	ハウス西2	1.5	大葉	65	10			3月30日	6月2日	11月10日ハウス・ビニール張り替え
ニラ(2)	ハウス西2	1.5	大葉	65	10			10月6日	11月17日	9月21日地上部をカット・追肥各畦化成1kg
ニンニク(1)	南2	1.8	中国産	43	15	11月13日		5月19日	5月25日	
ニンニク(2)	南2	0.6	ホワイト6片	43	15	11月15日		5月31日	5月31日	
春ミズナ(1)	西2	0.5	京スズ	65	20	2月18日	3月14日	4月25日	5月13日	
秋ミズナ(1)	南1	0.3	京みぞれ	65	20	8月19日	9月13日	10月11日	10月18日	
秋ミズナ(2)	南1	0.3	京みぞれ	65	20	8月22日	9月13日	10月11日	10月18日	
秋ミズナ(3)	南1	0.6	京みぞれ	65	20	8月31日	9月16日	10月12日	10月21日	
秋ミズナ(4)	南1	0.6	京みぞれ	65	20	9月9日	10月12日			チンゲンサイの跡地
						9月16日	10月17日	11月22日	12月25日	
秋ミズナ(5)	西2	0.5	京みぞれ	65	15	10月14日	11月1日	12月26日	1月23日	
コマツナ(1)	南2	0.9	夏楽天	65	10	2月22日		4月14日	4月26日	
コマツナ(2)	西2	0.5	夏楽天	65	10	4月22日		5月24日	5月26日	
コマツナ(3)	西2	0.5	夏楽天	65	10	5月2日		5月31日	6月6日	
秋コマツナ(1)	南1	0.6	夏楽天	65	20	9月1日		9月21日	10月5日	
秋コマツナ(2)	南1	0.6	夏楽天	65	20	9月7日		10月11日	10月21日	
秋コマツナ(3)	南1	0.6	夏楽天	65	20	9月22日		11月1日	11月4日	
秋コマツナ(4)	南1	0.6	夏楽天	65	20	10月4日		11月7日	11月9日	カラシナの跡地
秋コマツナ(5)	南1	0.6	夏楽天	65	20	10月21日		11月24日	12月5日	
秋コマツナ(6)	西2	0.5	夏楽天	65	15	10月25日		12月19日	1月5日	ホウレンソウ(3)の跡地
サトイモ(1)	西4	2.4	石川早生	100	60	4月12日		11月7日	11月7日	実習
サトイモ(2)	西4	2	赤芋	100	60	4月12日		11月8日	11月8日	
サトイモ(3)	西4	4.8	エグイモ	100	60	4月12日		11月7日	11月7日	実習
春コカブ(1)	南2	0.3	ヒカリ	65	15	2月22日		4月11日	4月26日	
秋コカブ(1)	西2	0.5	大病ヒカリ	65	20	9月1日		9月26日	10月21日	間引き菜9月26日〜28日
秋コカブ(2)	西2	0.5	大病ヒカリ	65	20	9月9日		10月24日	10月28日	
秋コカブ(3)	西2	0.5	大病ヒカリ	65	20	9月29日		10月31日	11月16日	間引き菜11月8日(終)
秋コカブ(4)	西2	0.5	大病ヒカリ	65	20	10月6日		11月21日	12月1日	
秋コカブ(5)	西2	0.5	大病ヒカリ	65	20	10月12日		12月5日	12月26日	
春ダイコン(1)	南2	0.2	4月早生	65	20	2月22日		5月1日	5月13日	
春ダイコン(2)	南2	0.3	4月早生	65	20	3月14日		5月20日	5月30日	
春ダイコン(3)	南2	0.2	大師	65	20	2月22日		5月12日	5月18日	
春ダイコン(4)	南2	0.3	大師	65	20	3月14日		5月31日	6月3日	
春ダイコン(5)	南2	0.2	おはる	65	20	2月22日		5月12日	5月13日	

作目	圃場	面積(a)	品種	畦幅	株間	播種(月日)	定植(月日)	収穫(始)	収穫(終)	
春ダイコン(6)	南2	0.6	おはる	65	20	3月24日		5月24日	6月17日	
秋ダイコン(1)	西2	0.5	大病総太り	65	20	9月1日		10月24日	11月1日	9月20日間引き菜
秋ダイコン(2)	西2	0.5	大病総太り	65	20	9月6日		11月1日	11月9日	9月22日間引き菜
秋ダイコン(3)	西2	0.5	大病総太り	65	20	9月15日		11月10日	11月22日	10月3日間引き菜
秋ダイコン(4)	西2	1	大病総太り	65	20	9月27日		11月22日	12月19日	
秋ダイコン(5)	西2	0.5	大病総太り	65	20	10月3日		12月20日	12月22日	10月24日間引き菜
秋ダイコン(5)	西2	0.5	まさる	65	20	10月6日		12月22日	12月26日	11月2日間引き菜
春ニンジン(1)	南2	0.6	向陽2号	32	10	2月21日		5月23日	5月31日	
春ニンジン(2)	南2	0.6	向陽2号	32	10	2月22日		6月2日	6月21日	
春ニンジン(3)	南2	0.6	向陽2号	32	10	3月10日		6月9日	6月27日	
春ニンジン(4)	南2	0.6	向陽2号	32	10	3月10日		6月14日	6月30日	
春ニンジン(5)	南2	0.6	向陽2号	32	10	3月23日		6月27日	7月5日	
秋ニンジン(1)	西4	1	向陽2号	32	10	8月19日		10月31日	11月21日	8月8日実習播種分が発芽不良のため播き直し
秋ニンジン(2)	西4	0.5	向陽2号	32	10	8月25日		11月7日	11月28日	播種後の水分不足で発芽不良
秋ニンジン(3)	西4	0.5	向陽2号	32	10	8月29日		11月15日	1月10日	10月2・3日(2)3日間引き菜
秋ニンジン(4)	西4	0.5	向陽2号	32	10	9月5日		11月15日	1月10日	
秋ニンジン(5)	西4	0.5	向陽2号	32	10	9月8日		12月6日	1月16日	10月13日(1)~(5)追肥・1畦化成1kg
秋ニンジン(6)	西4	0.5	高農真紅金時	32	10	9月5日		12月12日	1月16日	
春バレイショ(1)	南2	3	ダンシャク	100	25	3月3日		6月2日	6月6日	湿害対策で畦を作り植え付けを行った
春バレイショ(2)	南2	3	メークイン	100	25	3月3日		6月7日	6月7日	発芽・生育も良好で増収
春バレイショ(3)	南2	2.4	デジマ	100	25	3月3日		6月14日	6月15日	
春バレイショ(4)	南2	1.8	アンデス	100	25	3月3日		6月23日	6月23日	
秋バレイショ(1)	西5	5	デジマ	110	20	9月15日		11月21日	12月7日	黒マルチ2畦
秋バレイショ(2)	西5	2.2	アンデス	110	20	9月15日		11月28日	12月7日	黒マルチ2畦
セロリー(1)	ハウス西1	1.5	トップセラー	65	20	7月14日	9月16日	11月28日	2月20日	8月19日鉢上げ(80穴10枚)
秋カラシナ(1)	南1	0.3	葉からし菜	65	20	8月19日	9月6日	9月21日	10月4日	
秋カラシナ(2)	南1	0.3	葉からし菜	65	20	8月22日	9月6日	9月28日	10月4日	
秋カラシナ(3)	南1	0.6	葉からし菜	65	20	9月1日		9月28日	10月7日	
秋カラシナ(4)	南1	0.6	葉からし菜	65	20	10月3日		11月7日	11月9日	コマツナ(1)跡地
秋カラシナ(5)	ハウス西2	0.5	葉からし菜	65	20	11月18日	1月13日	2月15日	2月23日	
秋カラシナ(6)	ハウス西1	0.5	葉からし菜	65	10	11月18日	1月13日	2月24日	3月1日	
チンゲンサイ(1)	南1	0.3	青武	65	20	8月22日	9月13日	10月6日	10月12日	
チンゲンサイ(2)	南1	0.6	青武	65	20	8月31日	9月16日	10月11日	10月17日	
チンゲンサイ(3)	南1	0.6	青武	65	20	9月16日	10月7日	11月7日	11月9日	
チンゲンサイ(4)	南1	0.2	青武	65	20	10月14日	10月14日	11月10日	11月17日	
チンゲンサイ(5)	西2	0.5	青武	65	20	10月20日	10月31日	1月5日	1月16日	コカブ(2)の跡地
ハクサイ(1)	南1	0.6	黄ごころ65・無双	65	30	8月23日	9月13日	11月8日	11月21日	虫害のため苗不足
ハクサイ(2)	南1	1.2	黄ごころ65・無双75	65	40	8月23日・31日	9月26日	11月15日	12月1日	
ハクサイ(3)	南1	1.2	黄ごころ85	65	40	8月31日・9月6日	9月28日	12月2日	2月10日	9月6日追播80穴苗箱5枚
シュンギク(1)	ハウス西4	1	大葉シュンギク	65	20	9月2日	9月22日	10月21日	3月28日	11月10日ハウス・ビニール張り替え
シュンギク(2)	ハウス西4	0.5	大葉シュンギク	65	20	9月26日		10月28日	3月28日	
タカナ(1)	西2	0.5	三池たか菜	65	40	9月12日	9月30日	11月2日	11月15日	
タカナ(2)	西2	0.5	三池たか菜	65	20	9月12日	10月7日	11月15日	12月21日	
シロナ(1)	南1	0.6	みなとべかな	65	20	10月19日		11月22日	12月16日	ミズナ(1)の跡地
シロナ(2)	西2	0.5	みなとべかな	65	15	10月25日		12月19日	1月23日	ホウレンソウ(2)の跡地
タマネギ(マルチ使用)	南1	1	マッハ	65	12		11月2日(2010年)	3月25日	5月2日	
タマネギ(マルチ使用)	南1	1.5	ソニック	65	12		11月2日(2010年)	5月6日	5月10日	
タマネギ	南1	1.5	ソニック	65	12		11月15日(2010年)	5月20日	6月3日	
タマネギ	南1	1.5	猩々赤	65	12		11月9日(2010年)	5月16日	5月25日	
タマネギ	南1	2.5	ターボ	65	12		11月24日(2010年)	6月7日	6月9日	
タマネギ	南1	1	ネオアース	65	12		11月15日(2010年)	6月15日	6月15日	
ナス	西1	0.6	千両2号	1.8	60	1月31日	4月19日	6月13日	9月7日	
ナス	西1	0.9	長者	1.8	60	1月31日	4月19日	6月13日	9月7日	
ナス	西1	0.3	くろわし	1.8	60	1月31日	4月19日	6月13日	9月7日	

作目	圃場	面積(a)	品種	畦幅	株間	播種(月日)	定植(月日)	収穫(始)	収穫(終)
ピーマン	西1	0.6	京鈴	1.8	60	2月28日	5月2日	6月13日	10月13日
ピーマン	西1	0.3	伏見甘長	1.8	60	2月28日	5月2日	6月13日	10月13日
ピーマン	西1	0.3	甘とう美人	1.8	60	2月28日	5月2日	6月13日	10月13日
スイカ	西5	3.2	夏武輝	400	100	2月28日	4月21日	7月21日	8月11日
スイカ	西5	1.6	秀山	400	100	4月1日	5月2日	7月27日	8月11日
カボチャ	西5	1.6	つるなしやっこ	400	100	3月22日	4月26日	7月15日	7月22日
カボチャ	西5	1.6	ほっこりえびす	400	100	3月22日	4月26日	7月15日	7月22日
カボチャ	西5	0.8	はやと	400	100	3月22日	4月26日	7月15日	7月22日
カボチャ	西5	0.8	赤ずきん	400	100	3月22日	4月26日	7月15日	7月22日
キュウリ(1)	西1	0.3	夏すずみ	1.8	30	3月29日	4月21日	6月1日	7月20日
キュウリ(2)	西1	0.3	夏すずみ	1.8	30	6月25日	7月8日	8月3日	9月7日
キュウリ(3)	温室A	2.2	越前やぶ栗(やぶ栗)	100	50	8月29日	9月15日	10月18日	12月1日
オクラ	西1	1.2	グリーンソード	65	30	4月20日	5月17日	7月8日	10月13日
クウシンサイ	西1	1.2	クウシンサイ	65	40	4月20日	5月17日	6月24日	10月12日
ツルムラサキ	西1	1.2	ツルムラサキ	65	40	4月20日	5月17日	6月24日	10月12日
モロヘイヤ	西1	1.2	モロヘイヤ	65	40	4月20日	5月17日	6月24日	10月12日
ソラマメ	西4	2.5	打越一寸	65	40	10月20(2010年)	11月10日(2010年)	5月9日	5月30日
インゲンマメ	西1	1.2	つるなしモロッコ	65	40	4月20日	5月2日	6月6日	7月11日
トマト(春作)	温室B	2.2	桃太郎ファイト	100	12	12月28日(2010年)	1月21日	5月19日	7月22日
トマト(春作)	温室B	2.2	シンディースイート	100	12	12月28日(2010年)	1月21日	5月9日	7月22日
トマト(秋作)	温室B	2.2	桃太郎ファイト	100	12	7月28日	8月10日	10月20日	12月28日
トマト(春作)	温室B	2.2	シンディースイート	100	12	7月28日	8月10日	10月11日	12月28日
イチゴ	温室C	2.2	さちのか	100	20	7月23日(2010年)	9月27日(2010年)	1月5日	6月28日
イチゴ	温室C	2.2	女峰	100	20	7月23日(2010年)	9月27日(2010年)	1月5日	6月28日

(2) 水田部門

平成23年度の乾田直播栽培は、例年と同じく5月中旬頃から播種を開始した。天候に比較的恵まれ、出芽も良く生育は順調であった。移植栽培では苗箱へ5月中旬に播種し、苗の生育は順調に進み、岡山水田、八浜水田共に田植えも平年並みに行え、活着は比較的順調であった。しかし、今年から急拡大した田植え面積に対して、田植え作業時の著しい労働力不足と、昨年同様にヒエなどの雑草が大発生し、人員減もかさなっており、除草が追い付かなかった。今年は昨年よりも猛暑日は少なかったが8月中旬から曇りの日が多く日照不足の傾向がみられた。

岡山水田は栽培品種をあきまさりに統一し、1号水田はガイダンス科目総合農業科学入門で一年次生全員による手植え移植とし、2号水田は田植え機

を用いて成苗（葉齢5～5.5）を移植栽培した。3号水田では、修士・卒業論文作成のための試験が行われ、多くの研究成果が報告された。また、3号水田の南側で大学生協稲作り体験企画の栽培が行われた。八浜水田は2号～6号水田で乾田直播栽培し、1号水田では成苗（葉齢5～5.5）を用いた移植栽培を行った。また、カキ殻の多い場所では秋落ちしやすい傾向がみられたため、水田の一部に追肥を行った。水稻の作柄、作況指数は全国平均が533kg/10a, 「101」、岡山県南部は526kg/10a, 「101」であったが、本農場の水稻収量はアケボノ507kg/10a, ヒノヒカリ320kg/10a, あきまさり462kg/10a, 平均437kg/10aとなった。（多田正人）

第1表 栽培面積

作目	栽培様式	品種	栽培圃場及び面積(a)	合計(a)
水稻	移植	あきまさり	1号 (40)	40
	移植	あきまさり	2号 (64)	64
	試験研究用		3号 (25) 研究室・未収穫	25
八浜水田				
水稻	直播	アケボノ	3号 (69)	69
	直播	あきまさり	2号 (158) 4号 (81)	239
	直播	ヒノヒカリ	1号 (70) 5号 (70) 6号 (54)	194
	移植	あきまさり & アケボノ	1号 (211) 5号 (64)	275

第2表 栽培の概要

作目	栽培様式	品種	播種・移植期	播種量 kg/10a	施肥量(kg/10a)				収穫期
					種類	N	P ₂ O	K ₂ O	
岡山水田									
水稻	移植	あきまさり	5/12・6/13～14	1.3	日産 Z	9～12	6	6	10/24～10/28
八浜水田									
水稻	移植	あきまさり	5/20・6/21～27	1.3	LPE80&かるらく	8～11	8	8	10/24～11/4
	移植	アケボノ	6/27	1.3	LPE80	8～11	8	8	11/7～11/9
	直播	ヒノヒカリ	5/18～5/19	6.5	日産 Z	9～12	6	6	10/11～10/14
	直播	アケボノ	6/8	6.5	日産 Z	9～12	6	6	11/7～11/9
	直播	あきまさり	6/4～6/6	6.5	日産 Z	9～12	6	6	10/24～11/4

第3表 水稻防除作業内容

	薬品名	圃場名(号田)	使用量(/10a)	月/日
八浜水田				
除草剤	デルカット	1,5	500cc	6/20 ~ 6/22
	トレファノサイド	2,3,4,6	293cc	6/8
	ダイナマンフロアブル	3,4,5,6	500cc	6/21 ~ 6/22
	ザーク D	2,3,4,6	1Kg	6/24 ~ 7/7
	サラブレット RX	1,5	492cc	6/28
	ワイドアタック	2,3,4,6	100cc	7/14 ~ 7/15
殺虫・殺菌剤	アドマイヤー顆粒	1,2,3,4,5,6	28g	5/18 ~ 6/6
	ブラシンフロアブル	1,2,3,4,5,6	98cc	8/17 ~ 8/29
	ロムダンゾル	1,2,3,4,5,6	98cc	8/17 ~ 8/29
	モンカットフロアブル	1,2,3,4,5,6	98cc	8/17 ~ 8/29
	トレボン乳剤	1,2,3,4,5,6	98cc	8/17 ~ 8/29
岡山水田				
除草剤	デルカット	1,2,3	485cc	6/10
	ダイナマン	1,2,3	500cc	6/16
殺虫・殺菌剤	ブラシンフロアブル	1,2,3	98cc	8/17 ~ 8/18
	ロムダンゾル	1,2,3	98cc	8/17 ~ 8/18
	モンカットフロアブル	1,2,3	98cc	8/17 ~ 8/18
	トレボン乳剤	1,2,3	98cc	8/17 ~ 8/18

(3) 果樹部門

平成23年の岡山農場における生産概要を第1表に、本島農場における生産概要を第2表に示した。

今年は比較的穏やかな気候であったため、果樹類の生育はおおむね順調であった。生産物は質の良いものが多く、生産量も確保できたため、岡山農場での総収入額は864万1863円と前年よりも増加した。

フィールド科学センターは3月末をもって本島農場を閉鎖し、本島農場でのカンキツ類の栽培は3月末をもって終了した。昭和39年2月以来のカンキツ圃場の歴史に幕が閉じられた。

岡山農場装置化施設の大温室は来年1月に解体されることになり、跡地には鉄骨ハウスが建てられることが決定した。

作目ごとの薬剤防除履歴および植物生長調節物質使用履歴を、第3表から第13表に示した。

1) モモ

モモ全体の生産量と収入金額は共に前年並みであった。春先の低温により、開花が前年よりも1週間程度遅れたが、その後の生育は順調で、例年通りの時期に収穫期を迎えた。収穫時期の天候に恵まれたため、各品種とも食味が良かった。主な品種の平均糖度は‘あかつき’と‘紅清水’では13～14度、‘清水白桃’では11～15度、‘川中島白桃’、‘白桃’および‘白麗’では14～16度、‘ゴールデンピーチ’では13度、ネクタリン‘秀峰’では15度であった。

‘清水白桃’では、例年よりも大玉の果実が多く、変形果の割合が低かった。‘白桃’では袋掛け後の生理的落果が多く、‘あかつき’の一部の樹でも同様の傾向が認められた。‘ゴールデンピーチ’ではシンクイムシの被害を受ける果実が多かったが、果実の渋味は少なかった。ネクタリンの‘秀峰’では樹勢が衰弱気味で、果実の肥大が例年よりも劣った。

4号園の欠株となっていた場所に、3月に、‘清水白桃’、‘日川白鳳’および‘おかやま夢白桃’の苗木を各1本定植した。また12月にも、‘おかやま夢白桃’の苗木1本を定植した。

前年に引き続き、今年も、動物栄養学研究室が4号園のモモ圃場でヤギの放牧を行った。

2) ブドウ

気候が安定していたため各品種ともおおむね順調に生育し、果実の品質が良好であった。病害虫の発生が少なく、数年前に植え付けた樹の樹冠拡大がほぼ終了したこともあって、生産量は前年よりも増加した。販売は好調で、11月中旬には全品種の収穫が終了し、収入金額は前年よりも増加した。

主な品種では、‘藤稔’は房型、着色ともに良好で、糖度は18～19度で食味が良かった。‘ピオーネ’は糖度19度程度、ガラス室の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’は糖度20度程度で、ともに食味が良かった。

‘ネオ・マスカット’は樹の衰弱が認められたため、着果量を前年の3分の1にとどめた。‘瀬戸ジャイアンツ’は収穫時期が遅れたため、果皮にシミが発生した果実が多かった。樹冠拡大中の‘オーロラブラック’では、生産量が増加し、高品質の果実が多かったが、果皮がまだら状に着色する障害が一部に認められた。

室内温度コントロール室の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では、樹冠拡大が終了して棚面に隙間がなくなったことから、夏季の棚下の温度が下がり、果実品質が向上した。ガラス室ではホソヘリカメムシの侵入が多く、‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では、今年も被害軽減のため袋掛け栽培を行った。

当初、大温室が10月中に解体される予定になっていたため、‘グロー・コールマン’の生産は行わなかった。1号園ハウスおよび南圃場ガラス室での苗木の生育は順調であった。

3) その他の果樹

カキでは、渋柿各品種の生産量は前年並みであったが、甘柿各品種の生産量は、着花数が少なかったことから前年よりも少なくなった。‘西条’では、早い時期に収穫した果実では脱渋後の日持ちが悪く、後期に収穫した果実では、初期と同じ脱渋処理では渋みが完全に抜け切らないものがあつた。‘平核無’では生理落果がやや多かった。‘富有’と‘松本早生富有’ではヘタムシの発生が多かった。

第1表 平成23年果樹部門生産概要（岡山農場）

種 類	品 種	面積(a)	販売数量(kg)	収入金額(円)
モモ	あかつき	4.0	674	467,690
	紅清水	7.2	938	653,348
	清水白桃	10.7	565	601,700
	ゴールドンピーチ	4.0	509	323,695
	川中島白桃	1.4	146	119,950
	白桃	0.6	95	63,850
	日川白鳳	1.4	93	46,500
	白麗	0.6	38	25,400
	白鳳	3.3	116	73,200
	ネクタリン（秀峰）	0.8	64	36,800
	その他品種	4.0	481	164,870
ブドウ	藤稔	6.2	970	702,955
	ピオーネ	5.2	630	415,707
	巨峰	2.6	496	172,638
	マスカット・ベリー A	4.2	596	294,593
	ヒロハンプルグ	1.4	535	277,302
	アーリー・スチューベン	1.7	271	132,658
	ネオ・マスカット	1.0	77	38,700
	デラウェア	1.7	204	119,100
	安芸クイーン	1.0	135	95,900
	瀬戸ジャイアンツ	0.8	197	146,630
	オーロラブラック	1.6	99	71,870
	翠峰	0.9	168	125,587
	ゴルビー	1.4	130	89,280
	ハニーシードレス	0.7	83	41,540
	サニールージュ	0.5	99	49,460
	マスカット・オブ・アレキサンドリア	6.4	712	753,616
	その他品種	0.9	64	36,120
カキ	富有	5.1	930	234,964
	松本早生富有	3.5	120	42,090
	平核無	3.5	904	181,442
	西条	3.5	661	190,997
	愛宕	5.2	1,866	259,387
	その他品種	2.0	269	51,614
リンゴ	つがる	2.6	277	91,870
	ふじ	2.6	298	97,700
	その他品種	0.8	77	30,930
キウイフルーツ		7.4	2,923	711,829
ウメ		4.2	495	179,890
ビワ		3.1	212	102,726
スモモ		3.0	295	88,325
ウンシュウミカン		4.5	806	153,630
レモン		1.4	86	42,007
ユズ		6.1	48	15,403
ブルーベリー		0.7	13	26,400

リンゴでは、各品種ともに食味が良かった。‘ふじ’の完熟果実は糖度17度以上で、蜜が入り、香りが良かった。春先に、凍害のために‘つがる’1本が

枯死した。前年に凍害を受けて欠株となっていた場所には、3月に、JM1台‘ふじ’6本、およびJM1台‘つがる’2本を補植した。

キウイフルーツでは、前年に収穫した果実を随時追熟して5月まで販売した。今年の栽培では着果量を前年よりも減らして管理し、収穫量は‘ヘイワード’が約1000kg, ‘香緑’が約400kgであった。収穫した果実は大玉のものが多く、12月から販売を始めた。

岡山農場のウンシュウミカンでは、‘興津早生’はLL級の果実が多く、‘石地’はS級の果実が多かつ

た。両品種とも糖度は10度程度であった。

ブルーベリーでは結実が安定し始め、グッドジョブ支援センターの職員に収穫・調整を依頼した。3月には、‘ティフブルー’3本、および‘パウダーブルー’3本の苗木を欠株跡地に植え付けた。

3月末をもって栽培を終了した本島農場では、栽培資材などを含めて撤収作業を行った。

(近藤毅典, 山本昭, 酒井富美子)

第2表 平成23年果樹部門生産概要（本島農場）

種 類	販売数量 (kg)	収入金額 (円)
ウンシュウミカン	314	67,622
甘夏	2,313	415,343
イヨカン	520	105,828
その他	793	137,067

第3表 モモの薬剤防除履歴（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍率等	備 考
3/18	石灰硫黄合剤	7	
3/28	カップパーシン水和剤	500	
4/14	ロブラール水和剤	1500	
4/20	コンフューザーMM	240本/20.9a	
5/2	オンリーワンフロアブル	2000	
〃	アディオオン乳剤	2000	
5/9	ストロビードライフロアブル	2000	
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000	
5/24	ベルクート水和剤	2000	
〃	バリダシン液剤5	500	
〃	ダイアジノン水和剤34	1000	
5/30, 6/1, 2, 6, 13	スペックス水和剤	500	袋掛け対象樹のみ
〃	フェニックス顆粒水和剤	4000	袋掛け対象樹のみ
6/8	ベルクート水和剤	2000	
〃	ダーズバンDF	3000	
〃	アドマイヤー顆粒水和剤	7000	
6/17	ストロビードライフロアブル	2000	袋掛け対象樹のみ
〃	フェニックス顆粒水和剤	4000	袋掛け対象樹のみ
6/21	スペックス水和剤	500	袋掛け対象樹のみ
〃	ロディー乳剤	2000	袋掛け対象樹のみ
7/8	オンリーワンフロアブル	2000	
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000	
〃	マイトコーネフロアブル	1000	
8/2	サムコルフロアブル10	5000	一部のみ
〃	コテツフロアブル	2000	一部のみ
10/3	ビスダイセン水和剤	500	
〃	スプラサイド水和剤	1500	
12/5	マシン油乳剤95	20	

第4表 ブドウ（雨よけハウス）の薬剤防除履歴（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍 率	備 考
4/5, 6	石灰硫黄合剤	7	
〃	ベンレートT水和剤	200	
5/6	アブロードフロアブル	1000	
〃	サンマイト水和剤	1500	
5/19, 20	ジマンダイセンフロアブル	800	
〃	スプラサイド水和剤	1500	
6/1, 2	フェスティバル M 水和剤	1000	
〃	ゲッター水和剤	1500	
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000	
6/24	オンリーワンフロアブル	2000	
〃	スプラサイド水和剤	1500	
〃	バロックフロアブル	2000	
6/30, 7/1, 4, 7	ストロビードライフロアブル	3000	
〃	スカウトフロアブル	2000	
〃	コテツフロアブル	2000	
9/27, 10/28, 11/1, 16	IC ボルドー 66D	50	
〃	スミチオン水和剤	1000	

第5表 ブドウ（ガラス室）の薬剤防除履歴（2月加温栽培）（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍率等
3/9	オマイト水和剤	1000
4/19	ポリベリン水和剤	1000
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000
5/13	ストロビードライフロアブル	3000
〃	オルトラン水和剤	1500
6/1	インダーフロアブル	8000
〃	コテツフロアブル	2000
7/6	テルスターフロアブル	4000
〃	カネマイトフロアブル	1500

第6表 ブドウ（ガラス室）の薬剤防除履歴（無加温栽培）（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍率等
3/28	オマイト水和剤	1000
4/20	ラウンドアップマックスロード	100
5/6	インダーフロアブル	8000
〃	アブロードフロアブル	1000
5/26	ポリベリン水和剤	1000
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000
6/15	ストロビードライフロアブル	3000
〃	コテツフロアブル	2000
7/6	カンタスドライフロアブル	1500
〃	テルスターフロアブル	4000
8/11	フェニックス顆粒水和剤	4000
〃	カネマイトフロアブル	1500

第7表 ブドウの植物成長調節剤使用履歴（平成23年）

月/日	品 種 名	薬品名・濃度
5/10, 11, 13	デラウェア	ジベレリン100ppm+ストレプトマイシン200ppm
5/30	サニールージュ	ジベレリン 25ppm
6/1	巨峰	ジベレリン25ppm(一部20ppm)+フルメット0.4ppm
〃	安芸クイーン	ジベレリン 25ppm (一部20ppm)
〃	オーロラブラック	ジベレリン 25ppm
6/3	デラウェア, ハニーシードレス	ジベレリン 100ppm
〃	アーリー・スチューベン	ジベレリン 50ppm
〃	ピオーネ, ゴルビー	ジベレリン 25ppm (一部20ppm)
6/6	藤稔	ジベレリン20ppm(一部25ppm)+フルメット0.4ppm
6/7	ヒロハンプルグ	ジベレリン 100ppm
〃	瀬戸ジャイアンツ	ジベレリン 25ppm + フルメット 5ppm
〃	翠峰	ジベレリン 25ppm
6/10	安芸クイーン, 巨峰, オーロラブラック, サニールージュ	ジベレリン 25ppm
6/13	ピオーネ, ゴルビー	ジベレリン 25ppm
6/16	藤稔, 翠峰	ジベレリン 25ppm
6/17	マスカット・ベリー A	ジベレリン 50ppm
〃	瀬戸ジャイアンツ	ジベレリン 25ppm

第8表 カキの薬剤防除履歴（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍 率	備 考
3/14	石灰硫黄合剤	7	
5/2	ベルコート水和剤	1500	
〃	オルトラン水和剤	1000	
6/8	オンリーワンフロアブル	2000	
〃	アードント水和剤	1000	
6/29	ストロビードライフフロアブル	3000	
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000	
7/14	スプラサイド水和剤	1500	愛宕のみ
8/5, 26	ペンコゼブ水和剤	500	一部のみ
〃	スミチオン水和剤	800	一部のみ
〃	クレフノン	100	一部のみ
9/15, 10/6	トップジンM水和剤	1500	一部のみ
〃	ダントツ水溶剤	4000	一部のみ
12/13	マシン油乳剤 95	20	

第9表 キウイフルーツの薬剤防除および植物成長調節剤使用履歴（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍率等
3/14	石灰硫黄合剤	7
6/28	フルメット液剤	5ppm
7/8	ベルコート水和剤	1000
〃	スプラサイド水和剤	1500

第10表 リンゴの薬剤防除履歴（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍率等	備 考
3/14	石灰硫黄合剤	7	
4/20	コンフェューザー A	200本/7.5a	
4/25	バイレトン水和剤 5	1000	
〃	ウララドライフロアブル	2000	
5/11	オーソサイド水和剤	800	
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000	
〃	カーラフロアブル	2000	
6/9	ベルクート水和剤	1000	
〃	ダーズバン水和剤 25	1000	
〃	ダニトロンフロアブル	1000	
7/5	アーデント水和剤	1000	
〃	バロックフロアブル	2000	
7/12	ストッポール液剤	1000	つがるのみ
8/5	ダントツ水溶剤	3000	
〃	ダニゲッターフロアブル	2000	
10/8	トップジンM水和剤	1500	
〃	ダントツ水溶剤	4000	
〃	コロマイト水和剤	2000	
10/28	テルスターフロアブル	3000	
12/28	マシン油乳剤 95	20	

第11表 ウメの薬剤防除履歴（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍 率
1/18	石灰硫黄合剤	7
4/21	ベルクート水和剤	2000
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000
4/30	ストロビードライフロアブル	2000
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000
12/21	マシン油乳剤 95	20

第12表 スモモの薬剤防除履歴（平成23年）

月/日	薬 品 名	倍 率
3/14	石灰硫黄合剤	7
4/14	トリフミン水和剤	1000
〃	スカウトフロアブル	2000
4/21	ベルクート水和剤	2000
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000
5/9	ストロビードライフロアブル	2000
〃	アルバリン顆粒水溶剤	2000
7/11	ダイアジノン水和剤	1000
9/12	ダーズバン水和剤	1000
12/13	マシン油乳剤 95	20

第13表 カンキツ類の薬剤防除履歴（岡山農場）（平成22年）

月/日	薬 品 名	倍 率
5/19	ストロビードライフロアブル	3000
〃	アルバリン顆粒水和剤	2000
7/5	スプラサイド水和剤	1500
〃	サンマイト水和剤	2000
9/16	トップジンM水和剤	1500
〃	ダントツ水溶剤	4000
〃	コロマイト水和剤	2000
10/28	テルスターフロアブル	3000

(4) 畜産部門

1) 津高牧場（繁殖牛）

平成23年の飼育牛移動状況を第1表に示した。子牛生産頭数は、雌が18頭、雄が19頭の計37頭であった。本年は、雄の同性双子が1腹生まれた。繁殖牛の事故は流産が1件と、奇形牛の死産が1件と、分娩直後の子牛を前肢の骨折により予後不良としたのが1件あった。

本年の販売総数は39頭で、そのうち子牛が35頭、肥育牛が4頭であった。

繁殖成績を、第2表に示す。人工授精で39頭と受精卵移植で1頭を受胎させることができた。

本年は昨年より1頭多い受胎頭数であった。ここ数年、受精卵移植の受胎頭数が少ないので、移植頭数を増やすと共に、購入の受精卵の導入により改良も進めてゆき、今後も牛の観察と飼養管理に気を配りながら、1頭でも多くの牛を受胎できるように努

力してゆきたい。

子牛の販売成績を、第3表に示す。出荷頭数は、去勢21頭、雌14頭の合計35頭であった。出荷日齢は、前年と比較して、去勢で変わらず、雌で8日伸びた。出荷体重は、前年と比較して、去勢では1kg減り、雌では9kg増えた。価格は、前年より去勢、雌とも高値であった。本年の子牛の発育は、去勢、雌ともまずまずの発育であった。現在子牛市場で実施されている「岡山和牛推奨子牛」の表示販売で当牧場の去勢牛の4頭が「おかやま四つ星子牛」として販売された。飼養管理技術を向上して、今後も「おかやま四つ星子牛」を目標にした子牛の飼養管理を行ってゆきたい。本年は、コクシジウム症の発症はなかった。今後も下痢の発生を抑え、下痢が発生した場合には、早期発件・早期治療に努めてゆきたい。

枝肉販売成績を、第4表に示す。

第1表 平成23年飼育移動状況

			雌				雄			合 計
			子牛	育成牛	繁殖牛	肥育牛	子牛	育成牛	肥育牛	
23. 1. 1	現在		15	1	41	2	15	0	－	74
期 間 移 動	増	生産	5	－	－	－	10	－	－	15
		振替	－	1	1	2	－	－	－	4
	減	振替	1	1	2	－	－	－	－	4
		へい死	－	－	－	－	1	－	－	1
		売却	9	－	－	2	9	－	－	20
23. 6.31	現在		10	1	40	2	15	0	0	68
期 間 移 動	増	生産	13	－	－	－	9	－	－	22
		振替	－	3	1	1	－	－	－	5
	減	振替	3	1	1	－	－	－	－	5
		へい死	－	－	－	－	－	－	－	0
		売却	5	－	－	2	12	－	－	19
23.12.31	現在		15	3	40	1	12	0	0	71

第2表 平成23年人工授精・受精卵移植成績（23.1.1～23.12.31）

	実施 頭数	受胎 頭数	受胎率 (%)	受精回数							
				1		2		3		4回以上	
				受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎
人工授精	42	39	92.8	26	－	8	2	5	1	－	－
受精卵移植	4	1	25.0	1	3	－	－	－	－	－	－

第3表 平成22年子牛販売成績

販売 年月日	耳 番 号	生年月日	性別	生後 日齢 (日)	体 重 (kg)	日 齢 体 重 (kg/日)	落札 価 格 (千円)	kg当り 単 価 (円)	母 牛 番 号	父 牛 名 号
23. 1.28	P 70	22.04.05	去	298	279	0.936	388	1,391	Y216	沢茂勝
	P 73	22.05.13	去	260	263	1.012	383	1,456	Y245	安福勝
	P 74	22.05.17	去	256	273	1.066	400	1,465	Y226	第6栄福
23. 3.11	P 71	22.05.11	去	304	267	0.878	340	1,273	Y239	菊花国
	P 72	22.05.11	雌	304	269	0.885	335	1,245	Y239	菊花国
	P 75	22.06.10	雌	274	248	0.905	309	1,246	Y212	藤平茂
	P 77	22.06.26	雌	258	251	0.973	305	1,215	Y225	安福勝
	P 78	22.06.27	去	257	281	1.093	398	1,416	Y244	藤平茂
23. 4.22	P 76	22.06.10	雌	316	245	0.775	310	1,265	Y212	藤平茂
	P 79	22.07.06	雌	290	292	1.007	371	1,271	Y238	安福勝
	P 80	22.07.14	去	282	274	0.972	388	1,416	Y248	茂花国
	P 82	22.08.03	雌	262	277	1.057	364	1,314	Y241	菊花国
23. 6. 3	P 83	22.08.05	去	302	285	0.944	364	1,277	Y247	茂花国
	P 84	22.08.22	雌	285	280	0.982	301	1,075	Y236	茂花国
	P 85	22.09.04	雌	272	257	0.945	280	1,089	Y222	藤平茂
	P 86	22.09.04	去	272	250	0.919	324	1,296	Y234	藤平茂
	P 87	22.09.21	雌	255	252	0.988	277	1,099	Y227	沢茂勝
23. 7.15	P 88	22.09.25	去	251	311	1.239	398	1,280	Y207	北湖2
	P 90	22.11.13	去	244	267	1.094	387	14,490	Y224	紋次郎 ET産子
	P 91	22.11.17	去	240	263	1.096	361	1,373	Y220	肥後桜
	P 93	22.11.20	雌	237	272	1.148	288	1,059	Y211	藤平茂
	P 94	22.11.29	去	228	274	1.202	365	1,332	Y209	安福勝
23. 8.26	P 92	22.11.19	去	280	274	0.979	359	1,310	Y213	肥後桜
	P 96	22.12.07	去	262	271	1.034	395	1,458	Y250	福安照
	P 97	22.12.10	雌	259	254	0.981	322	1,268	Y231	肥後桜
	P 99	23.01.01	去	237	272	1.148	374	1,375	Y230	茂花国
23.11.11	P100	23.01.20	去	311	263	0.846	337	1,281	Y242	茂花国
	P101	23.02.01	去	283	280	0.989	415	1,482	Y243	菊花国
	P103	23.02.12	去	272	275	1.011	391	1,422	Y240	藤平茂
	P104	23.02.18	雌	266	254	0.955	340	1,399	Y246	藤平茂
	P105	23.03.30	去	226	270	1.195	377	1,396	Y233	安福勝
23.12.16	P106	23.04.04	雌	256	271	1.059	311	1,148	Y228	藤平茂
	P107	23.04.15	去	245	279	1.139	389	1,394	Y226	菊花国
	P108	23.05.01	雌	229	252	1.100	329	1,306	Y245	茂花国
	P109	23.05.22	去	208	264	1.269	376	1,424	Y249	茂花国
平均		全頭	35	265	269	1.023	352	1,311		
		去勢	21	262	273	1.050	377	1,379		
		雌	14	268	262	0.983	317	1,210		

第4表 平成23年枝肉販売成績

と殺 年月日	耳 番 号	性別	水引枝肉 重量 (kg)	枝肉 規格	枝肉 単 価 (円/kg)	売上 金額 (千円)
23. 3. 2	Y200	雌	323.2	B-1	650	210,080
23. 5.18	Y237	雌	438.5	B-2	730	320,922
23. 8.24	Y212	雌	363.0	B-2	630	228,690
23.10.17	Y224	雌	336.8	B-2	550	184,695

2) 草地生産

平成23年における飼料作物の生産状況を第5表に示す。

採草地における飼料作物の青草換算による収量は253,365kgであり、10a当たり平均収量は5,108kgであった。採草地と放牧草地との収量を合わせた総収量は428,965kgとなった。利用形態別による収量割合は青刈りで24.7%、乾草で16.3%、サイレージで18.1%、放牧で40.9%となった。

乾草調製用の材料草としてE号とK3号草地からイタリアンライグラス、スーダングラス、A号とD2号とK1号草地からイタリアンライグラスを収穫した。本年の乾草収量は、平成22年に比べ生草換算で70%の増収であった。E号とK1号とK3号のイタリアンライグラスは順調に収穫できたが、A号とD2号は天候に恵まれず収穫時期が遅れ、あまりいい物とはとれなかった。

サイレージ調製用の材料として、D2号、K1号草地からトウモロコシ、A号草地からソルゴーを収穫

した。今年のサイレージ調製収量（生草換算）は77,875kgと、昨年より減量となった。D号K1号ともイタリアンライグラスの収穫の遅れによりトウモロコシの播種が遅れたため作柄は良くなかった。D1号草地では、今年もイノシシによる食害があり、電牧柵を張り、ある程度は侵入を防ぐことができた。本年は、イノシシ対策として牧場の外周に防護柵設置を行っているところである。

今年もイチビが発生し、トウモロコシは、生育処理を行ったが、イチビ発生したところは除草をおこなった。今後も薬剤処理技術を粗飼料生産システムに組み入れて、少しでも多くの収穫が得られるようにしたい。

放牧草地では、今年もオナモミ、ワルナスビ、イグサ、セイタカアワダチソウなどの雑草がみられ、除草剤を使って除草作業を行った。特にワルナスビの繁殖が著しく、今後も、継続して除草作業を行う予定である。

（野久保隆，片山圭司）

第5表 平成23年 津高牧場飼料作物生産量

草地	面積 (a)	作物	利用形態別収量(kg)				放牧 延頭数	生草換算 収量(kg)	草地当たり収量(kg)	
			青刈	乾草	サイレージ	放牧			生草合計 収量	10a 当り 平均収量
A	100	トウモロコシ	17,740	2,530				30,390	68,165	6,817
		エンバク+イタリアンライグラス	4,950		13,130			37,775		
D 2	130	スーダングラス	6,260	2,830				20,410	50,270	3,867
		トウモロコシ	5,910		9,580			29,860		
E	76	イタリアンライグラス	3,230	1,390				10,180	35,590	4,683
		スーダングラス	14,210	2,240				25,410		
K 1	90	イタリアンライグラス	3,550	1,770				12,400	34,420	3,824
		トウモロコシ	920		8,440			22,020		
K 2	60	エンバク	6,930					6,930	36,750	6,125
		ソルゴー	29,820					29,820		
K 3	40	イタリアンライグラス	860	1,070				6,210	28,170	7,043
		スーダングラス	11,360	2,120				21,960		
計	496		105,740	13,950	31,150			253,365	253,365	5,108
B	65	混播牧草				21,640	541	21,640	21,640	3,329
C	120	混播牧草				33,760	844	33,760	33,760	2,813
D 1	20	混播牧草				480	12	480	480	240
F	104	混播牧草				33,120	828	33,120	33,120	3,185
G	112	混播牧草				29,200	730	29,200	29,200	2,607
H	47	混播牧草				9,280	232	9,280	9,280	1,974
I	185	混播牧草				48,120	1,203	48,120	48,120	2,601
計	653					175,600	4,390	175,600	175,600	2,689
合計	1149		105,740	13,950	31,150	175,600	4,390	428,965	428,965	3,733

利用形態別における生草換算収量 (kg)

青刈	乾草	サイレージ	放牧	合計
105,740	69,750	77,875	175,600	428,965

*サイレージの生草換算はトウモロコシ×2.5

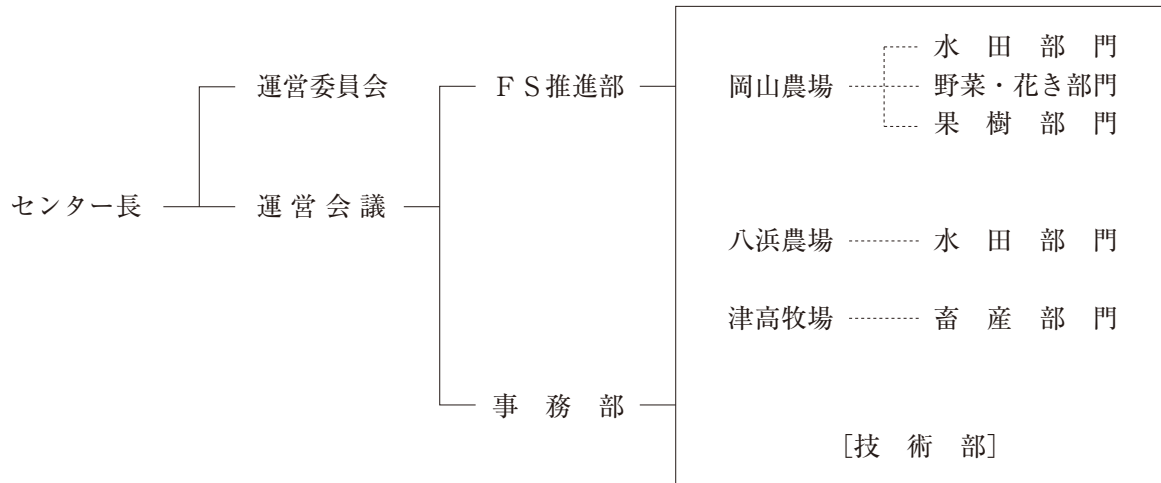
ソルゴー×2.5

*乾草の生草換算は×5

2. 事 務 部

(1) 組 織

1) 機 構



2) 教職員数

平成23年4月1日現在

区 分	教育職員 (一)	一般職員 (一) 技術・事務職員	計	非常勤職員	合計	備考
センター長	1		1		1	教授
主 事	1		1		1	教授
准 教 授	1		1		1	
助 教	1		1		1	
班 長		1	1		1	
副 班 長		1	1		1	
主 任		3	3		3	
技 術 職 員		3	3		3	
事 務 室 長		1	1		1	
主 査		1	1		1	
事 務 職 員		1	1		1	
計	4	11	15		15	
事務補佐員				2	2	
技能補佐員				3	3	
技術補佐員				4	4	
計				9	9	
合 計	4	11	15	9	24	

3) 技術部部門別職員数

部 門	平成23年4月1日現在		
	技術職員	非常勤職員	合 計 備 考
水田	1	1	2
野菜・花き	3	4	7
果樹	2	1	3
畜産	2		2
その他		3	3
合 計	8	9	17

(2) 予算及び収入

1) 予 算 (振替, 事項指定等特殊な予算は除く)

平成23年度		金 額 (円)
事 項		
センター経費		49,927,371
事務室経費		300,755
半田山自然教育 研究林経費		291,419
合 計		50,519,545

2) 収 入

平成23年度					(円)
区 分	野菜・花き	汎用耕地	果樹部門	山地畜産	合 計
果 菜 類	4,828,041	—	—	—	4,828,041
葉 菜 類	4,627,194	—	—	—	4,627,194
根 菜 類	2,699,117	—	—	—	2,699,117
花 卉 類	767,725	—	—	—	767,725
果 樹	—	—	9,170,297	—	9,170,297
米	—	9,774,700	—	—	9,774,700
牛	—	—	—	12,715,615	12,715,615
合 計	12,922,077	9,774,700	9,170,297	12,715,615	44,582,689

(3) 土地, 建物面積

1) 土 地

農場等名	面 積 (㎡)	所 在 地
岡山農場	91,992	岡山市北区津島桑の木町1-62
八浜農場	89,568	玉野市八浜大崎1771
津高牧場	312,484	岡山市北区日応寺
合 計	494,044	

(4) 備品類及び営繕工事

1) 備品類 (1 件50万円以上)

平成 23 年

備品類名	数量 (式)	金 額 (円)
八浜農場 ハイクリブリーム	1	2,520,000

2) 営繕工事 (1 件50万円以上)

平成 23 年

工事名	数量 (式)	金 額 (円)
岡山農場 パイプハウス設置工事	1	1,389,521
岡山農場 鉄骨ハウス設置工事	1	4,500,000

(5) 会議開催状況

1) 運営委員会

開催なし。

2) 運営会議

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
23. 4. 4	1. 平成 23 年度ワーキンググループ一覧について 2. 平成 23 年度全国大学附属協議会春季全国協議会について 3. センターホームページについて	1. 平成 23 年度センター実習について 2. 平成 23 年度公開講座について 3. フィールド科学センター利用申込状況について 4. 技術部会議等について 5. 生産物の販売について 平成 22 年度販売実績について 6. グッドジョブ支援センターの作業スペース確保に伴う実習棟の改修について 7. 予算執行見込について 8. その他
23. 5.11	1. 平成 23 年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 2. 夏季一斉休業制度への対応について 3. 施設整備費等の要求について 4. その他	1. 平成 23 年度春季全国大学附属農場協議会について 2. 平成 23 年度センター実習について 3. 平成 23 年度ジュニア講座について 4. フィールド科学センター・半田山教育研究林利用申込状況について 5. 技術部会議等について

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
23. 5.11		6. フィールド科学センター生産物販売について 7. 防災・防火に関する講習会及び消防訓練について 8. その他
23. 6. 1	1. 平成 23 年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 2. センター公用車利用に関する申し合わせについて 3. その他	1. 平成 23 年度春季全国大学附属農場協議会について 2. グッドジョブ周辺の改修について 3. 平成 23 年度センター実習について 4. 学長裁量経費の要求について 5. 半田山教育林利用申込状況について 6. 技術部会議等について 7. フィールド科学センター生産物販売について 8. その他
23. 7. 6	1. 中国・四国地域大学フィールド演習の農場体験実習の新規開講について 2. グッドジョブによる有人販売のレジスター導入について 3. その他	1. 平成 23 年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 2. 夏季集中実習について 3. 公開シンポジウムについて 4. センター報告 33 号について 5. フィールド科学センター生産物販売について 6. 技術部会議等について 7. フィールド科学センター生産物販売について 8. その他
23. 8. 3	1. 平成 22 年度決算について 2. 平成 23 年度予算配分（案）について 3. その他	1. 平成 23 年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 2. 夏季集中実習について 3. 技術部会議等について 4. フィールド科学センター生産物販売について 5. その他
23.11. 2		1. 学長裁量費（教育プロジェクト等支援経費）について 2. 平成 23 年度秋季全国大学附属協議会について

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
23.11. 2		3. 岡山農場電気保安点検終了について 4. 技術部会議等について 5. フィールド科学センター生産物販売について 6. その他
23.12. 7	1. 平成 23 年度非常勤職員の採用計画について 2. 平成 23 年度作付け計画について 3. 予算執行額について 4. 野良猫の対策について 5. その他	1. 平成 23 年度秋季全国大学附属協議会について 2. 技術部会議等について 3. フィールド科学センター生産物販売について 4. 中国・四国地域大学附属農場実践技術集録の発行について 5. その他
24. 1. 4	1. 平成 23 年度作付け計画について 2. 予算執行見込について 3. 1 農場 1 アピールについて 4. 第 35 号センター報告の原稿依頼について 5. その他	1. 販売所の改修に伴う移転等について 2. 24 年度センター実習計画の打合せについて 3. 技術部会議等について 4. フィールド科学センター生産物販売について 5. その他
24. 2. 1	1. 予算執行見込について 2. 平成 24 年度センター併任教員について 3. センター専任教員のコースへの併任について 4. 平成 24 年度農学部部内委員会委員名簿について 5. 平成 24 年度センター実習について 6. 販売所改修について 7. 附属山陽圏フィールド科学センター講演会について 8. 技術部職員体験発表会について 9. 天満屋への平成 24 年度出店更新について 10. その他	1. 平成 24 年度非常勤職員の更新並びに採用について 2. 本島農場固定資産移動について 3. フィールド科学センター利用申込況について 4. 技術部会議等について 5. 生産物販売について 6. その他
24. 3. 7	1. 予算執行見込について 2. 平成 24 年度実習実施要項（案）について 3. その他	1. 平成 24 年度非常勤職員の採用について 2. センターホームページ更新について 3. 平成 24 年度公開講座について

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
24. 3. 7		4. センター報告について 5. フィールド科学センター利用申込況について 6. 技術部会議等について 7. 生産物販売について 8. その他

(6) 施設開放の状況

施設利用目的, 時期	施設利用者名	期 間	団 体 数 等	参加人数
野外活動 (11 月 22 日)	ノートルダム清心大	1 日	1 団体	学生 3 名
実習 (11 月 1 日)	環境理工学部	1 日	1 団体	教員 1 名 学生 45 名
農場見学 (2 月 22 日)	中国浙江大学	1 日	1 団体	職員 7 名
Jr. サイエンス (5 月 29 日～10 月 2 日)		4 日		小学生 26 名
公開講座 (4 月 13 日～9 月 14 日)	一般市民	21 日		28 家族
いもほり (10 月 1 日～11 月 4 日)	〈内訳〉 保育園 幼稚園 小学校 親子クラブ その他	各 1 日	36 団体 10 団体 13 団体 3 団体 7 団体 2 団体	約 3,000 名